

令和6年度 北区地域保健推進協議会 摘録

日 時：令和6年10月3日（木）午後2時～4時00分

場 所：北区役所西庁舎2階 講堂

出 席：委員14名（欠席5名うち委任状提出4名）

事務局（川妻北区長、赤木保健福祉センター長、吉田子どもはぐくみ室長、四元健康長寿推進課長、永井健康長寿推進課担当課長、石川障害保健福祉課長、近藤子どもはぐくみ課長、阿部保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室健康長寿企画課担当課長、有原保健福祉局医療衛生推進室医療衛生企画課担当係長、横田地域支援係長、天野地域支援担当）

（司会） 四元健康長寿推進課長

1 川妻北区長挨拶

2 委員自己紹介

事務局より本会の出席人数について報告

出席が過半数を超えており、会議が成立していることを確認

事務局職員紹介

地域保健推進協議会について

3 議題・報告

（1）部会長、副部会長の選出について

部会長 北医師会長 小仲委員

副部会長 西陣医師会長 田中委員

（2）北区役所保健福祉センターの取組について

（説明 永井健康長寿推進課担当課長、石川障害保健福祉課長、
近藤子どもはぐくみ課長）

（3）意見交換

保健福祉センターの取組に対する意見、新型コロナウイルス感染症が
5類へ移行した後の各方面での課題や取組等について

(委員)

インターバル速歩参加者の年齢層を知りたい。(※)

集団健診の開催場所を小学校から区役所へと変更してから受検者数が減少している。開催場所を小学校へ戻す予定はないと聞いているが、市民は地元で集団健診が実施されることを期待している。要望を北区役所からも保険年金課へ伝えてほしい。

(※) 事務局からの回答

最近始めた賀茂川でのインターバル速歩実施時は、40歳前後の方から80歳過ぎの方まで参加いただいた。

公園体操については、60歳代及び70歳代の方を中心に、80歳代や、90歳代の方も少し参加いただいている。

集団健診についてのご要望については、保険年金課へお伝えする。

(委員)

フレイル予防には、栄養や運動が大切であるが、社会参加も重要である。自立した高齢者が社会参加できる場所が更に増えるといいと思う。

障害施策について、災害が多く起こる中で、人口呼吸器装着者等の災害時個別避難マニュアルが設けられたことは素晴らしい。また、吸引機の使用者は多くおられ、停電時に適切な対処が必要となるため、マニュアルの拡充を検討いただきたい。

また、障害があり自宅で過ごしている方や、その家族が孤立しないようにすることが大切だ。障害のある人と障害のない人が交流できる機会を作ることが望ましい。

(委員)

今年度開始されたヨガ教室の内容を知りたい。(※)

(※) 事務局からの回答

内容としては、姿勢についての説明のほか、太陽礼拝など、初歩的なものを扱った。参加者からは好評であったが、参加人数が少なかったため、次回以降、参加者を増やしていきたい。

(委員)

フレイル予防に運動が有効であることはもちろんであるが、食事もフレイル予防には重要な観点である。中高年の栄養と食事について、もっとフォーカスしてもらいたい。

(委員)

インターバル速歩について、7～8年にわたり取り組まれているが、参加メンバーは固定していないだろうか。新しい参加者も毎回増えていかないといけないが、民生委員としても経験があるが、お誘いしても孤立し、頑として参加を拒む方もおられる。そういった方は、病院にもかからない傾向があるように思う。

京都市は、75歳以上で、健康保険を使用せず、病院へかからない高齢者の状況を把握しているだろうか。個人的には、80歳代で病院にかからず過ごしておられる方は表彰しても良いくらいに思っている。民生児童委員や老人福祉員としての見守り活動の参考に、自身の学区でそういった方が何人おられるか、是非把握したい。

(※) 事務局からの回答

状態不明者への取組として、京都市から手紙を送っている。返信されない方がたくさんおられるが、手紙を返信された方の中で、ハイリスクの方については個別でアプローチしている。

(委員)

高齢者を対象とした事業を実施している。事業の対象となる高齢者には、元気な方もおられるし、介護認定を受けていてもサービスを利用されず介護予防される方もおられる。また、障害者の方は65歳以上になれば介護保険が優先となるため、介護保険のサービスを利用するには至らない方が御自身で取組をされて介護予防されていく、そういった方もいらっしゃることを想定しなければならない。具体的には、目が見えない方でもできる体操を行う、難聴など聴覚障害の人も利用できる講座を実施することなどがあると思う。対象者を広げて活動を設定していく必要を感じている。

健康状態不明者について、75歳～80歳代で、介護認定を受けておられず、2～3年特定健診を受けていない人のリストを京都市が持っている。健康に留意していただけるよう、そういった方を対象に北区全域対象で体力測定会を開催している。また、学区単位でも活動しているため、他の団体の方もつながって、一緒に介護予防に取り組んでいただきたい。

(委員)

リハビリテーション職として、今ある取組をより良くする提案や協力を通じ、地域の皆様のお役に立ちたいと考えている。よろしくお願いします。

京都市の健康づくりの取組にプラスせんぽがある。健康に自信のある方や普段から運動されている方にとっては、良い目標となるが、状態不明者やひきこもり傾向のある方については、千歩はハードルが高い。そこで、「プラス選（せん）」として目標を各自で設定し、ハードルを下げて、今よりも少し体力アップできるようにしてはどうだろうか。

聞こえの問題に関しては、ヒヤリングフレイルがある。京都市のフレイル対策予防事業にヒヤリングフレイルは含まれていないが、リハビリテーション職（言語聴覚士）が関われる分野かと思う。補聴器は雑音も含めた音を拾うため、すぐにきれいに音が聞こえるわけではなく、言語聴覚士、医師や業者に相談して調整していかなければならないが、調整について御存知でないために高価な補聴器をうまく使えず放置している方がたくさんおられる。そういった方がおられないようにしていきたい。

また、防災の面から体操を見ることが出来る。災害の後、避難所生活が長引いてしまうと、体力のない高齢者は引きこもり傾向になり、フレイルが進んでしまう。そこで、サポーターに災害時の注意点について知識をつけていただき、率先して避難所で体操を行うサポーターとして認定する制度を作ってみるのはいかがだろうか。

（委員）

児童虐待について、北区の虐待の相談・通告への対応件数、どのような対応をとっているのか、また痛ましい事件に至ってしまった案件があったのか、知りたい。虐待の対応をしっかりと行っていただきたい。

（＊）事務局からの回答

対応件数については持ち合わせがないが、北区では件数は増加傾向である。地域が虐待に敏感でいてくださることが要因だ。区役所では、既に把握している虐待案件について通報がある場合は、関係機関も含め、再度現状を把握し対応している。痛ましい事件に至ることはなかった。

厳しい状況の家庭はあり、関係機関と連携して多方面から見守り、支援しているところである。地域が虐待に敏感になり、すぐに通報していただくことで虐待を見逃さずに対処できる。何か気づかれることがあったら、すぐ通報していただけるようお願いする。

（委員）

私は健康づくりサポーターをしている。先程、インターバル速歩や体操の参加者が固定しているのではないかとのお声をいただいたが、固定の人もいる中で、新しい参加者も少しずつ増えていつている。インターバル速歩は、実施場所を船岡山から賀茂川へと変更したことで顔ぶれが変わり、新しい方がたくさんこられた。賀茂川はエリアが広く、参加者に歩いてもらうためのサポーターの力量が問われている。

歩くことは高齢者の健康管理の基本である。インターバル速歩の普及から皆さんにお伝えできているように思う。

ヨガについては、面白い取組だった。機会をいかに増やし、また健康づくりサポーターとしていかに取組を皆さんにお知らせするかが課題である。

最後に質問だが、障害保健福祉課にお伺いした、「はぐくみ合うまち・京

都ほほえみプラン」の全ての人に「居場所」と「出番」を、とは、どのようなことか、具体的な取組はどのようなものか。（＊）

（＊）事務局からの回答

具体的施策というよりも、目指すイメージとして取り組んでいる。誰にとっても「役割があること・どこかに所属していること・出番があること」、人と人とのつながりがあることは、生きる力になると理解している。障害のある方御自身の希望を叶えることを大切にしながら関わっている。具体的には、色々な福祉サービスにつなげたり、ということになるが、接する際の心持として考えている。

（委員）

以前、園児がお風呂で熱性けいれんを起こし救急車で搬送されたことがあったが、すぐに警察から保育園に家庭の様子等の問合せの電話があった。区役所のはぐくみ室ともつながっており、保育園での状況、保護者の情報を提供し、はぐくみ室と一緒に保護者対応をしたりして、虐待の対応に保育園も連携している。

現在、保育園では保育士不足が深刻である。高齢者にお手伝いに来ていただき、とても助かっている。お手伝いに来てくださることが高齢者の元気になってくださり、また職場の雰囲気も優しくなり、ありがたく思っている。

（委員）

今秋からコロナワクチンは定期接種となるが、このたびは病院への問合せがない。

以前はあったワクチン接種の通知もなくなり、どのように受けたらいいのか、高齢者がわかっていないのではないか。コロナ感染は収まっておらず、インフルエンザも流行する可能性があるため、病院でも働きかけを検討している。役所は周知について検討されているか。

（＊）事務局からの回答

例年通りインフルエンザワクチン接種をされる方は、コロナも併せて受けておられると推測される。予防接種のコールセンターを立ち上げてお問い合わせに対応させていただいているところであるが、コロナワクチンの接種について、周知の方法を工夫したい。

（委員）

コロナが5類に移行してから、大学の授業はほぼ対面式になり、ところどころz o o mを利用している。

北区開催の講演会や講習会について提案だが、一部についてz o o mを採用したり、録画してY O U T U B E配信するなど、検討されてはどう

だろうか。（＊）

（＊）北区健康体操「H a p p y ☆キタエちゃん体操」については、Y O U T U B E に配信しているため、御覧いただきたい。

ヨガ教室については、北区役所のホームページに写真や太陽礼拝のやり方を掲載しているので、御覧いただきたい。

（委員）

今日聞いた事柄で印象に残ったことがたくさんあった。内容を女性会のメンバーに伝えたいと思う。

先日、夫婦で介護認定を受けたところ、夫は要介護１、自身は要支援１の判定が出た。制度上の決まりではあるが、要支援１の認定では週１回しかリハビリに通うことができないが、介護予防のためにももっと通いたいと感じている。

通所リハビリの先生方から、給料アップを希望されている旨のお話をお伺いした。現行制度では、賃金が仕事内容に見合わないとのことだったため、署名等協力できることは協力したい。

今日のこの場が、保健福祉センターの取組の決定に向けて、委員からの意見を聞いていただける場となったら嬉しい。全て決まっている内容を報告いただき、お話するのは寂しいと感じた。

（委員）

北区役所の精神保健福祉相談事業に従事している。相談に来られる人が、何度でも繰り返し相談に来られるよう、お声がけしている。様々な悩みをお持ちの方が一人で悩まず相談に来られるよう、事業の周知をお願いしたい。

事務局から

いただいた意見について、行政で対応可能なところについては、参考にさせていただく。また、市役所の所管課とも情報共有させていただき、健康づくりをはじめとした、よりよい市政へつなげていく。

4 赤木保健福祉センター長挨拶

（以上）